■キャラクター　ファイル　No.4

ハリー　:50代男性/宿泊客

本名:デッド＝ダーティー

■背景

私は元警察官だが、今は退職してフリーのライターをしている。

かつて私にはローザという妻と、二人の娘がいた。
資産家のローザは小さなホテルを経営していた。
彼女からは、警官など辞めて一緒にホテルの経営を助けてくれと
言われていたが、この仕事に生きがいを感じていた私はそれを拒否。

そのまますれ違うように離婚してしまった。

それから一年後、ローザは何者かに殺された。

私は離婚したことをとても悔んだ。警官だった私はこの事件を解決させるべく全力を尽くした。
だが結果は…証拠不十分、事件は迷宮入りとなった。

12年の時効が過ぎてしまったが、私は諦めたくなかった。
私は警察を辞め…今でも独り事件を追っている。

妻を殺した男は、当時副支配人であったジャックという男に違いない。
その動機は、どうやら改ざんした土地の権利書でホテルの経営権を横領した事がバレて、その口封じの殺害であると睨んでいる。…が、しかし肝心の改ざんされたという権利書が見つからないのだ。

その後ホテルに常連客として何度も通った。

時にはこのジャックという男を殴り殺してやろうと思ったこともあるが、グッと耐えた。
そしてこのホテルの何所かにあるであろう、改ざんされた土地の権利書を今も探している。
何度かスタッフルームや従業員の個室に忍び込んだりしたが、それを見つけることはできなかった。
勿論そんなものは、もっと別の他の所に隠していてここには無いのかもしれない。

だが…　それは私の勘のようなものであったが、なぜかこのホテルに必ずあるような気がしてならない。

そういえば私の娘の一人、キャシーが一年前からこのホテルで働いている。
いったい何の因果であろうか…。きっと彼女は私の事など覚えていないだろう。
それでも、そっと遠くから眺めているだけでも幸せな気分になる。

---

| あなたのパワーポイント |
| --- |
| 7 |

※パワーポイントは、目的の証拠を手に入れるために必要になる可能性があります。

※このパワーポイントは各自で管理してください。

■事件のファイル

　私は、日の明るいうちにホテルにチェックインした。フロントには娘のキャシーが受付をしていた。
宿帳には、ハリーと記載した。このホテルに宿泊する時はいつもこの偽名を使う。
当然彼女は私の事など知らないだろうが、それでもいい。彼女の無事な姿を見るだけでも価値がある。

■19:00　(11月1日)
　ディナーは19時だったが、私は少し早めに大広間にやってきた。テーブルには4つの食器が並べらている。つまり、今夜の宿泊客は4人だけということになる。

　やがて、2人の宿泊客がやってきて…　私は心臓が飛び出るくらい驚いた。
なぜなら、彼らのうち1人は…私のもう一人の娘、ジェシカだったからだ。彼らは私に軽く会釈し、
自分達の席についた。彼女は注文に赤ワインを頼んだようだった。
　もうひとりの男性は彼氏なのだろうか?　なんだか2人ともソワソワしているように見える。
相手に悟られないよう…細心の注意を払い 隣のカップルを観察した。

　ジェシカがふと席を立った瞬間…相方の男が妙な動きをした気がした。
ここからではよく見えなかったが、彼女のワインに何か入れた?かのように見えた。

■20:00
　私は一人で食事を楽しんでいたが、実のところ隣の2人が気になって仕方なかった。
やがて、ジェシカが食事を終え…席をたった。

　それを見て私は、もう一人の男性に声を掛ける。彼からジェシカの情報を聞き出したかった。
まずは相手の警戒心を解くため、自分の身の上話をする。警官時代で有用な情報を聞き出す
ためによくやっていた手口だ。案の定…彼は私の話に食いついてきた。

　彼は、モルフィスと名乗った。ジェシカとは高校教師の同僚らしい。
一緒にブランデーを飲みながら、彼との会話がはずむ。

　そして私はもうひとつの気になっている事を調べてみた。彼がジェシカのワイングラスに
何か細工をしていたように見えた事だ。
　テーブルを布で軽くふいてみると布の表面に白い粉がついている。
塩や砂糖の類ではない。何か薬だろうか?

　軽く粉を集めて、試しにモルフィスのブランデーグラスにこっそり入れてみる。
ほんの少量だった事もあったせいか、モルフィスはそれに気づいた様子はなかった。

■20:30
　食事の給仕は当初ジャックとキャシーが交代でしていたが、やがてジャックは現れなくなった。

　料理のメインディッシュをこのホテルのシェフ、ロンが自ら運んできた。
彼とキャシーは恋仲であると、私は前々から気が付いていた。
気立てのよい青年で、彼になら彼女を任せてもよいと思っている。

■20:50
　空いている席に、中年女性がやってきた。ずいぶん遅い時間にチェックインしたものだ。
モルフィスと二人であの女性は一体どんな人物なのか…なんて他愛のない会話をする。
30分くらいで彼女は食事を終え、早々に自室に引き上げていった。

■22:00
　かれこれ2時間近くモルフィスと話ながら飲んでいる。終始彼はずいぶんと饒舌だった。
しかし、この時間になって口数が減ったかと思うと、急にトロンとした目つきになる。

彼の頭をそっと撫でてやると、テーブルにうっつぶして彼は寝息を立てて眠ってしまった。

■22:25
　彼が起きる様子はなかった。もしかして、薬の作用だろうか。睡眠薬にしては、効果が現れる
のが遅い気がするが、少量だからだろうか? 現物を手に入れないと詳しい事は分からない。

　寝ているモルフィスを後にして、ホールで給仕をしてくれたキャシーにチップを払うと、自室に
戻ることにした。

■22:30
食事を終えた私は自室(4号室)に帰った。
だが目的のものを探すのは、もっと遅い時間が良い。少しだけ仮眠をとろう。

■22:45
ベッドに入って目を閉じていると、遠くのほうで、男性の悲鳴のような声が聞こえる。
その後、足音やドアの開閉音、話し声が数秒続いたが、すぐに止んだ。

■4:20(11月2日)～
目が覚める。しまった…だいぶ寝すぎてしまった。昨日は飲みすぎてしまったか。
自室を出て、私はこのホテルの奥の一角にある、開かずの部屋を目指した。
従業員エリアのドアは、持ってきたピッキングツールでこじあけた。

■4:45
とうとう開かずの部屋にやってきた。
調べてみると、ドアには電子キーが備わっており、開錠するためには4桁の数字を入力する必要がありそうだ。よく見ると、2と3の文字が擦れて消えかかっている。
念のために、ピッキングツールで開錠を試みるが無駄な事であった。
私は、思いつく限りの番号を入力してみたが…ドアが開かれることはなかった。

■5:45
だいぶ日が明るくなってきたようだが、私は目の前のドアを開けることができなかった。
仕方なく今日のところは引き下がるしかない。

私はその場所をあきらめ自室に帰ることにした。

■5:55
小ホールまで来た時、なにか床に倒れているものに気が付く。
なんと、それは血まみれで絶命しているジャックの姿であった。

彼を殴り殺したいと思ってはいたが、一体これはどういう事なのだろう。

その時・・

「きゃっ!!」

大きな悲鳴が背後で聞こえた。 しまった、誰かに見られたか!!

後ろには、青ざめた顔で私を見つめるキャシーの姿があった。

「すまない、朝散歩していたら ここのドアが開いていて…思わず入ってしまったんだ。」
私はとっさにウソをついた。 なぜならここは、一般の客が入れない場所だったからだ。

■ハリーの情報
①モルフィスとの会話
はじめは彼の警戒心をとくため、自分自身の身の上を話して聞かせた。それは誇張もあり嘘もあったが、大筋は本当の事だ。勿論、名前なんかはぼかしたがね。あと、自分が警官だというのも隠した。
あとは、少しずつ彼の口数を誘導し、ジェシカの情報をひきだしていったのさ。

②この地方に関する犯罪等の知識
この地方の犯罪率自体は高くは無いが、ノース・カポファミリーというマフィアがこの地方を牛耳っている。

③モルフィスの所持していた、白い粉の正体
睡眠薬・麻酔薬・麻薬・毒薬・痺れ薬・媚薬のたぐいで、似たような症状がでるものがあるが、量が少なすぎて特定できそうもない。現物を見れば分かるかもしれない。

■あなたの目的

2人の娘が犯人ではないと信じているが……　事件の真犯人を追う

| | |
|---|---|
| 第1目標<br>勝ち点6 | 事件の真犯人を拘束しよう。 |

※最終投票で犯人を拘束する。

| | |
|---|---|
| 第2目標<br>勝ち点3 | 改ざんされた土地の権利書を手に入れる。 |

※エンディング時に、アイテム【改ざんされた土地の権利書】を持っている。

| | |
|---|---|
| 第3目標<br>勝ち点1 | 2人の娘たちに、自分が父親である事を隠し通す。 |

※エンディング時まで、自分が父親であると2人にばれない。

■あなたの初期所持品　(自室に置いてある物)

① 指紋採取キット　…指紋を採取できる。
　※情報のみのカード/(液体・食品・布)のような素材には指紋はつきません。
② ピッキングツール　…施錠エリアに入れる。※電子キーを除く
③ 家族の写真　…18年前の家族の写真。　警察官のハリーと、妻・娘が映っている。
④ 拳銃　…じつはレプリカであり、発砲はできない。
　所持していると、【所持品を奪う】【最終投票/同票決戦時】判定にパワーポイント+1

■あなたの固有アクション　(探索フェーズで使用可能)

●指紋の採取

アイテム【指紋採取キット】を持った状態で使用可能。
●効果…自室内・もしくはホテル内でオープンされた物/他人の許可を得た持ち物に
　付着していた指紋を採取することが出来ます。

※この固有アクションは探索フェーズで「固有アクション使用」と宣言をする事で使用できます。
　固有アクションの内容を周囲に言う必要はありませんが、言っても大丈夫です。

調べたいアイテムをGMにDM等で伝えてください。　GMから"誰の指紋が採取できたか"の
回答を即座に得ることが出来ます。

■プレイのワンポイントアドバイス

アリバイを証明できれば犯人疑惑はされにくい。
みんなをうまく誘導しながらストーリーを動かしていこう。

指紋採取セットは、誰かに取られると使用できなくなる。
最初の捜査フェーズで早々に自分の身分(元警官だった事)を明かし、カードをオープンにしたほうが
良いかもしれない。
※ただし周囲のみんながそれを信じてくれるかどうかは、貴方の腕次第だ。